

里地里山保全・再生の特征的取組 個票 A (対象地域の概況)

NO.115		隠岐・西ノ島	生物地理区分		コナラ林(西日本)	
			地域区分		中山間地	
所在地	都道府県	島根県	地形条件	1.山地	2.山麓部	3.丘陵・台地
	市町村	西ノ島町		4.低地	5.その他	
	集落名称等		環境要素	1.二次林	2.草地	3.水田
				4.畑	5.小川・水路	6.ため池
			7.池沼・湿地			
			8.社寺林			
			9.人工林			
			10.その他			

環境要素(対象とする地域に含まれる環境要素)

:面積割合が最大のもの :それ以外の環境要素

自然環境・景観保全、国土保全関連の法指定状況	自然環境、景観、文化等の観点からの選定・評価
国立公園	特定植物群落 「にほんの里 100 選」、「遊歩 100 選」
特徴的な動植物や生息環境	対象地の景観の現状
	写真集などの出版物がある、観光パンフレット等に写真が使用されている、風景探勝や撮影の来訪者が多い、自然公園や景観保全のための地域指定がある、景観関連調査(文化的景観等)の対象地となっている



撮影時期：H20年6月
写真の説明：西ノ島町国賀海岸において放牧される馬



撮影時期：H20年6月
写真の説明：牧内で放牧されている牛



写真の説明：現在も残るアイガキ(区牧を仕切る石垣)
(環境省HP自然環境局里地里山の保全・活用・伝統的な利用管理手法・日本の事例1隠岐諸島西ノ島町より)



写真の説明：公共牧野の景観
(環境省HP自然環境局里地里山の保全・活用・伝統的な利用管理手法・日本の事例1隠岐諸島西ノ島町より)

NO.115		隠岐・西ノ島		取組主体	1.地域コミュニティ(集落・組合等)
所在地	都道府県	島根県			2.団体・企業・学校等
	市町村	西ノ島町			3.行政による支援施策の活用
	集落名称等				4.多様な主体が参加・連携する組織体
				5.その他	

取組主体	主な主体の名称	J A 隠岐どうぜん浦郷支所、畜産農家、(公共牧野管理者：西ノ島町)	
	その他の主体の名称		

目的 : 主 : その他	1. 農林業を通じた里山や草地の利用(管理)の維持・活性化(伝統的なものも含む)		
	取組内容	<p>隠岐諸島独特の畜産・耕種農業複合システムである「牧畑」は、12世紀に記載された史書「吾妻鏡」に記載されていることから、非常に古い歴史を持つものと考えられ、19世紀後半までは、西ノ島町の大半の土地利用が牧畑であったと言われている。しかし、20世紀初頭から急激に牧畑が森林や放牧地に転換されていき、1960年代の後半には完全に姿を消すことになった。以前の牧畑は、現在では公共牧野として肉用牛馬の放牧が行われている。</p> <p>【牧畑の伝統を引き継いだ肉用牛馬の生産】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西ノ島の肉牛生産の季節サイクルは、冬季は牛舎で飼育し、春季～秋季は公共牧野で放牧を行うものであり、全てが繁殖経営(母牛に子牛を産ませその子牛を売る経営)である。 ・肉牛生産は通年を公共牧野で放牧し、子馬を熊本等の馬肉生産地に販売している。 ・西ノ島の住民は、1頭あたり年間5,500円の放牧料を支払うことにより、誰でも公共牧野で放牧を行うことができる。 ・公共牧野では、牧畑に端を発する「牧野単位での放牧管理」や「共同利用・管理」の仕組みが息づいている。 <p>【「隠岐牛」の生産振興】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肉牛生産は、西ノ島をはじめ隠岐諸島全体にとって基幹産業であり、その生産振興に向けて様々な取組が行われており、その一つとして「島産まれ、島育ち、隠岐牛」としてのブランド化が進められており、西ノ島で生まれ育った子牛を中ノ島(海士町)等で肥育して販売するといった取組が進められている。 	
連携・協働による取組内容・役割分担等	<p>J A 隠岐どうぜん：隠岐産馬の増頭と価格の安定を目指し、島内産の馬肉のブランド化を推進し、地元での消費拡大、お土産としての商品開発などに取り組んでいる。</p> <p>その他「牧畑を後世に伝える会」：放牧等を行っていない一般島民による任意団体であり、牧畑の価値を明らかにし広く発信していくための活動や、牧畑時代に整備された石垣等(アイガキ)の発掘や垣沿いの雑灌木の伐採等のボランティア活動を行っている。牧畑の世界遺産化を目指す。</p>		
取組の特徴や強調したい点	<p>従来、放牧と畑作4年で輪作する「牧畑」という手法が1960年頃まであった。2年より長く同じ作物を作らず、牛馬の放牧によって肥沃な土地を維持していた。現在でも牛馬が放牧されており、雑草等を食すため景観保全にも繋がっている。</p> <p>(取組の特徴)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・牧畑に端を発する「牧野単位での管理」や「共同利用・管理」の仕組みを通じて、持続可能な土地及び自然資源の利用・管理が継続されている。 ・公共牧野での放牧が継続されることにより、特に島の西側エリアを中心として野シバを主体とする草地と疎林、段々畑の名残の地形、土地を区分する石垣等によって構成される隠岐諸島特有の特征的な景観が維持され、我が国では極めて希少である草地生態系の維持に寄与している。 		

取組の概要	「牧畑」の伝統を引き継ぎ、肉用牛馬の放牧と畜産振興を進める	課題グループ 農林業手法
事例の特性	循環型農・畜産業(草地)	
取り組みの中で他の地域の参考となる点。	牧畑に端を発する「牧野単位での資源管理」や「共同利用・管理」の仕組みを通じて、持続可能な土地及び自然資源の利用・管理が継続されている。以前の牧畑は、現在では公共牧野として肉用牛馬の放牧が行われている。	